

M I C E 関連施設の状況について

ウォーターフロント地区におけるM I C E 関連施設に関する現況等について報告するもの。

1. 本市におけるM I C E 関連施設の概要

- 本市におけるウォーターフロント地区のコンベンションゾーンは、**会議場、展示場、ホール等の多様なM I C E 施設が集積**することで、国際会議や展示会併設型の大規模会議・学会等の**誘致に高い効果**を上げている。
- 直近では、展示機能の強化を目的としたマリンメッセ福岡 B 館の整備や、利用者の利便性向上を目的とした立体駐車場（マリンメッセ福岡第 1 駐車場）等の整備を行ってきた。

<ウォーターフロント地区におけるM I C E 施設の立地状況>



<ウォーターフロント地区におけるM I C E 施設の概要>

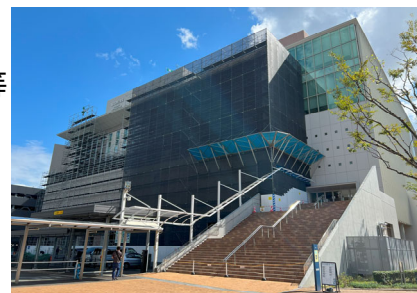
施設名	福岡サンパレス	福岡国際センター	マリンメッセ福岡A館	福岡国際会議場	マリンメッセ福岡B館
外観					
開業時期	1981年 (築44年)	1981年 (築44年)	1995年 (築30年)	2003年 (築22年)	2021年 (築4年)
主要施設	大ホール バンケット ホテル	多目的ホール	多目的展示室	メインホール 多目的ホール 国際会議室	多目的展示室
収容人数	ホール:2,322席	10,000人	15,000人	—	6,000人

2. 各MICE施設の現況

- MICE施設の状況については、施設ごとの長期保全計画などを踏まえ、施設運営の影響や財政面を考慮しながら、**計画的な修繕等に取り組んでいる。**

【直近の主な改修実績】

令和3年度	マリンメッセ福岡A館	内部改修・設備更新等
	福岡国際センター	舞台機構更新等
令和5・6年度	福岡国際会議場	内部改修等
令和7年度	福岡国際会議場	外壁改修等
	マリンメッセ福岡A館	設備更新等（予定）
	福岡サンパレス	屋上防水改修等（予定）



福岡国際会議場 外壁改修
(令和7年度)

- 福岡サンパレスや福岡国際センターについては、供用後44年が経過しているため、**老朽化がみられる**ことや、**施設が時代の変化に対応できていないため、快適な利用や効率的な利用が難しい状況も見受けられる。**

■ 福岡サンパレス

- ・屋上防水や配管等の劣化が進むとともに、照明・音響・機構等の舞台設備や空調設備等が、**耐用年数を超え、更新期を迎えている**
- ・バリアフリー対応が十分ではないことや、搬出入がトラック1台ごとのため設営撤去が必ずしも効率的ではないことが見受けられる など



屋上防水の現況



空調設備の現況

■ 福岡国際センター

- ・2階及び3階席までの来場者の主動線が階段となっており、**バリアフリー対応が十分ではない**
 - ・大型トラックが直接屋内に進入できないため、**設営撤去が効率的ではない** など
- 以上については、今後、対応の検討が必要



2階・3階席来場者の主動線が階段



搬出入口の高さが不足

【大型トラック】
(高さ約3.8m)

3.4m以下 <

■ その他（共用空間等）

- ・複数のMICE施設を併用する大型催事においては、施設間移動のためテントを活用した仮設通路を設置しており、その都度、**設営撤去の手間や経費が発生している**



仮設通路（テント）の設置状況
福岡国際会議場からマリンメッセ福岡A・B館方面を臨む

<具体例>

- ・福岡国際会議場とマリンメッセ福岡A・B館の間
- ・福岡国際センターと福岡サンパレスの間

3. MICE開催状況

- ウォーターフロント地区における令和6年度のMICEの開催状況については、来場者数が概ね新型コロナウイルス感染症拡大前の人数まで戻るなど、**順調に回復している**。
- 催事別には、コンサート、展示会、会議・集会の順に入場者数が多い。
- **展示会については、令和3年4月にマリンメッセ福岡B館が開館して以降、A・B館を併用する新規催事や既存催事の規模拡大など、これまでにない多様な催事が行われている**。
- また、**コンサートの需要も高まってきており、特にマリンメッセ福岡A館を利用した大型のコンサートが増加している**。

マリンメッセ福岡A館のコンサート利用日数：平成30年度 146日 ⇒ 令和6年度 185日

- 今後は、シンボリックな国際会議や国内の大型コンベンション、新規の大規模展示会など、質の高いMICE誘致に取り組むほか、需要が高まる大型コンサートや新規開拓するイベントなどに対応するため、受け入れ環境のさらなる充実を図りながら、**各施設において高い稼働率を目指していく**。

<ウォーターフロント地区におけるMICE施設の稼働率^{※1}及び入場者数^{※2}>

施設	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 ^{※4}	令和6年度
福岡国際会議場 ^{※3}	79.8%	77.7%	31.8%	43.2%	69.8%	79.1%	79.0%
マリンメッセ福岡A館	90.4%	83.3%	14.7%	52.8%	66.1%	98.2%	87.0%
マリンメッセ福岡B館	-	-	-	38.8%	32.8%	85.4%	60.2%
福岡国際センター	93.7%	80.7%	20.3%	40.5%	62.3%	80.9%	71.0%
福岡サンパレス ^{※3}	82.8%	73.5%	21.0%	73.9%	83.6%	82.2%	77.5%
入場者数	270万人	243万人	25万人	106万人	211万人	212万人	267万人

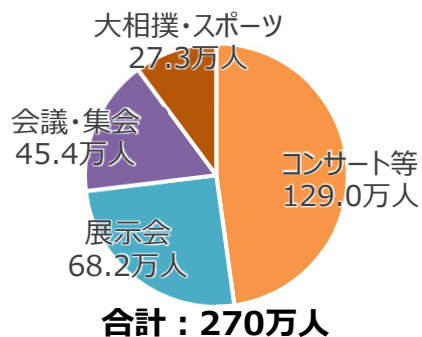
※1 稼働率：利用可能日数に対する利用日数の割合（福岡国際会議場のみ室数）

※2 入場者数：千人単位を四捨五入

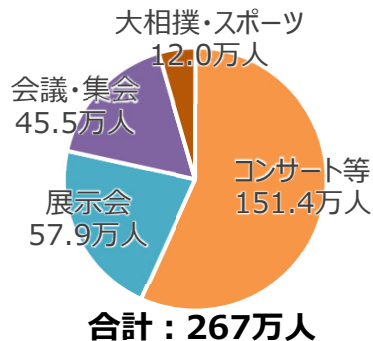
※3 福岡国際会議場はメインホール・多目的ホール・国際会議室の稼働率、福岡サンパレスはホールの稼働率

※4 令和5年3月～9月は、世界水泳選手権2023福岡大会でマリンメッセ福岡A・B館を利用

<催事別入場者数（平成30年度及び令和6年度）>



平成30年度 催事別入場者数



令和6年度 催事別入場者数

施設の利用状況



マリンメッセ福岡 A・B館を併用した展示会



福岡国際会議場における会議・集会の開催状況

4. 今後の進め方

- 現在、M I C E 施設の老朽化状況について詳細な調査を進めており、施設の老朽化状況や時代の変化に対応できていない部分、M I C E 需要の動向などを整理したうえで、**関連施設が一体的・機能的に配置された拠点の形成**に向けて、**更なるM I C E 機能強化に係る検討を進めていく。**

■「機能的・一体的に配置されたM I C E 拠点形成」の概念

